

台湾における外国人介護労働者の失踪問題の社会的意味  
～雇用主・仲介業者・労働者の「総弱者化」か？

Analyzing the Meaning of “Missing” Care-giving Foreign Workers in Taiwan:  
Are the Employers, Intermediary agents, and Workers All Weakened?

鄭 安君 (宇都宮大学)  
Cheng, An-Chun (Utsunomiya University)

キーワード：失踪外国人介護労働者、労働力市場、制度的弱者、総弱者化

## 1. 問題の所在と研究方法

外国人労働者の受け入れが「後発的」である台湾は、「利益最大化・コスト最小化」の実現を目指し、外国人労働者を補充的かつ一時的に受け入れるために、より「厳格な管理」を行ってきた。「厳格な管理」は、外国人労働者の職種・職場の変更を制限して、労働管理および入国・滞在管理を厳しくすることで、外国人労働者の受け入れ人数を一定規模内に抑制するとともに、労働者の失踪および「不法就労」をも防止できる方策として実施されてきた（田巻、2007：3,10）。

ところが、現在、台湾で働く外国人介護労働者はすでに25万人を超えている。9割強が住み込みの形で台湾の家庭に雇用されているが、外国人介護労働者は家庭においても施設においてもすでに台湾における主力の介護労働力提供者となっている。そして、近年、年間2万人前後の外国人労働者は雇用主のもとから失踪し、非正規滞在者（以下、失踪者）となるが、中でも介護労働者の失踪が目立っている（顧、2010：143；鄭、2018：1）。外国人介護労働者は失踪したあとも介護労働者として働くことが多く、失踪者の短期的な介護労働を求める雇用主の多さも確認されている。一部の合法仲介業者は失踪者の介護労働の非合法仲介も行っている（許、2006：127-128；鄭、2018：14-17）。

外国人介護労働者の失踪の背景と意味は何か。この問題は、労働者の視点だけではなく、雇用主および仲介業者の視点からも考察する必要がある。本研究は、諸関係者への半構造化インタビューをもとに、失踪者が不断に生み出されてきたことの社会的意味を問うものである。インタビューした外国人介護労働者は42名であるが、うち14名は失踪者または失踪経験者である。この中の数人には数回に渡ってインタビューを行っている。

## 2. 「制度的弱者」である雇用主・仲介業者・労働者と「総弱者化」の発生

これまでの先行研究は、職種・職場の変更が制限されている外国人労働者は労使問題などに直面した時に、「従順」か「逃走（失踪）」との2つの選択肢しかない指摘しているが、インタビューからは、外国人労働者が「抗議」や「抵抗」という行動を示すことが多いとかがえる。

実際、近年の法律の改正や介護需要の急増で、家庭外国人介護労働者は、雇用主を変更できる可能性がある。一部の選択の可能性を得た外国人女性たちは自身の不利益を雇用主に抗議し、労働者側から能動的に職場の変更（雇用主の変更）を申し出るケースが増加している。しかし、職場の移動の最終決定権が雇用主側にあるので、女性たちは自身の能動的な行動の結果に対して常に不安を抱え、その不安や結果の不満から失踪を選択することも増えている。

一方、雇用主は、「ケア労働の必要性」である資格制などの受け入れ基準により、必要な時にすぐに外国人介護労働者を受け入れるということが必ずしもできない。また、雇用主は、外国人労働者を雇用しても、介護労働力の継続確保および管理責任を心配し続けなければならない。労働者の雇用主変更、一時帰国、そして失踪の発生で雇用主は一定期間以上に介護労働力の喪失に直面してしまう。

介護労働力の喪失と管理責任の重みへの不安から、外国人介護労働者を厳しく管理する雇用主が多く、労働者の能動的な行動に対抗することも増加している。雇用主の管理方針や行動は、労働者の不安や不満となり、労働者の失踪に繋がることも多い。そして、失踪者の発生などで介護労働力を喪失した家庭

雇用主は、緊急的な介護労働力を確保するため、別の失踪者を雇うことが増加している。いびつなことに失踪者の介護賃金は、介護需要の上昇に伴い、合法家庭外国人介護労働者の賃金よりも高くなっている傾向がある。雇用主はより高い費用で失踪者を雇わなければならないケースも発生している。

また、台湾の仲介業者も決して良きビジネス環境にあるわけではない。厳しいビジネス競争に加えて、仲介業者は法律により外国人労働者の管理責任をも負わされている。近年、仲介業者は、高まる国際間での外国人労働者確保競争で利益の減少および労働者の確保への不安を抱え、政府の「厳格な管理」と「人権的配慮」という矛盾のある要求の中、雇用主・労働者・行政機関の間でもがく。中には雇用主のニーズと利益の確保のため、失踪者を雇用主に紹介する合法仲介業者もいる。本来、合法的な雇用・仲介・就労が一番安心であるが、制度上の問題で雇用主・仲介業者・労働者の3者はともに非合法の形を選択してしまう現象が起きている。

総じて、労働者・雇用主・仲介業者はともに制度によって弱い立場に立たされており、3者はともに「制度的弱者」の側面を有している。売り手市場にシフトしている中でも、労働者の状況は依然として改善されておらず、また、雇用主と仲介業者もこれまで得ていた利得を得られなくなり、より苦しい状況に置かれているケースが少なくない。本研究ではこのような現象について、「総弱者化」という問題提起的な概念を使って捉えている。

### 3. 本研究の意味

本研究は以下の2点の特徴がある。

1つ目は、「厳格な管理」は労働者にとって不利な制度だけではなく、雇用主および仲介業者にとっても不利な制度であり、雇用主・仲介業者・労働者の3者がともに「制度的弱者」となっていることへの指摘である。これまでの研究は、失踪問題について、主に労働者が「厳格な管理」のもとで雇用主と仲介業者に対して弱い立場に立たされていることに焦点を当て分析している。本研究は、「厳格な管理」は雇用主の介護需要や仲介業者のニーズをも抑え込んでしまい、制度の前では労働者だけではなく、雇用主と仲介業者も弱い立場に立たされていることを考察している。

2つ目は、台湾の介護労働分野における労働市場が買い手市場から売り手市場に大きく変わる中で複雑化する労働者・雇用主・仲介業者の3者関係を捉えて、失踪問題を考察していることである。雇用主と仲介業者の弱い立場は、労働力市場が買い手市場の中では見えにくかったが、売り手市場への移行の中で顕在化し始めたのである。その一方、外国人労働者の能動的な行動が増加しているが、「厳格な管理」という制度が維持されている中、雇用主・仲介業者・労働者の緊張関係が高まり、3者の関係がより複雑化している。こうした雇用主・仲介業者・労働者間の緊張関係が労働者の失踪に繋がり、3者はともに非合法的な形を選択するなど、より弱い立場に追い込まれてしまい、「総弱者化」となるケースの発生が増加している。

#### 【主な参考文献】

- ・ 顧玉玲 (2010) 「自由的條件：從越傭殺人案看台灣家務移工的處境」 國立交通大學社會與文化研究所碩士論文
- ・ 許淑媛 (2006) 「合法來台外籍看護工逃跑行為之研究」 國立中世大學勞工研究所碩士論文
- ・ 田巻松雄 (2007) 「アジアにおける非正規滞在外国人をめぐる現状と課題—日本、韓国、台湾を中心に」 『アジア・グローバル都市における都市下層社会変容の国際比較研究 平成 16～19 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書』 pp.1-29
- ・ 鄭安君 (2018) 「台湾における外国人介護労働者の失踪と失踪後の非合法介護労働—ベトナム人失踪者の事例による一考察—」 『アジア・アフリカ研究』 第 58 巻第 1 号 (通巻 427 号)、アジア・アフリカ研究所、pp.1-21